

業務実績書

研 No. 78

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	無形文化遺産に関する助言(1)		
【事業概要】 地方公共団体等の依頼に基づき、それらの実施する無形文化財・無形民俗文化財の調査・保存・活用などの事業に対し助言を行う。			
【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	無形文化遺産部長 宮田繁幸
【スタッフ】 高桑いづみ、飯島 満、菊池理予、今石みぎわ（以上、無形文化遺産部）			
【主な成果】 平成 23 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等について、文化庁文化財部伝統文化課に対し無形文化遺産保護条約に関する助言をはじめ、32 件の助言を実施した。			
【年度実績概要】 平成 23 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する各種委員会等へ出席し、以下の助言を行った。 1 文化庁文化財部伝統文化課への助言（無形文化遺産保護条約への対応に関して） 3 件 2 農林水産省大臣官房政策課への助言（「和食」のユネスコ無形文化遺産代表一覧表への提案に関して） 4 件 3 (財)伝統文化活性化国民協会への助言（全国神楽協議会、無形文化遺産記録所在情報データベースに関して） 5 件 4 (財)日本青年館への助言（全国民俗芸能大会に関して） 2 件 5 (独)日本芸術文化振興会への助言（文楽公演、芸術文化振興基金助成事業に関して） 4 件 6 山口県下松市への助言（筵織り技術の記録・伝承活動 事業に関して） 1 件 7 佐賀県立博物館への助言（寄贈楽器に関して） 2 件 8 出雲古代歴史博物館への助言（展示楽器に関して） 3 件 9 日本放送協会への助言（放送内容に関して） 1 件 10 日本ユネスコ協会連盟への助言（プロジェクト未来遺産運動に関して） 2 件 11 早稲田大学演劇博物館への助言（映像演劇学連携研究拠点事業に関して） 3 件 12 浮世絵木版画彫摺技術保存協会への助言（後継者養成事業成果物に関して） 2 件			
【実績値】 助言件数 32 件			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7111-1

自己点検評価調書

研 No. 78

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	助言件数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業は、依頼を受けて行うものであり、あらかじめ個々の助言について予定することは出来ないが、本年度も各種委員会等への出席及び助言の依頼がコンスタントに寄せられており、無形文化遺産分野での様々な要望に的確に対応できたものとする。以上の状況を総合的に判断して、Aと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	例年通り、多様な助言依頼に対応できており、計画は順調に達成できた。

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	文化財の修復及び整備に関する調査・助言(1)		
【事業概要】 地方公共団体等の実施する文化財の調査・保存・整備・活用などの事業に対して援助・助言するために、文化財の修復及び整備に関する調査を行う。			
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター副センター長 岡田健
【スタッフ】 石崎武志、中山俊介、北野信彦、朽津信明、犬塚将英、早川典子、森井順之、佐藤嘉則（以上、保存修復科学センター）、川野邊 渉、山下好彦（以上、文化遺産国際協力センター）、楠 京子、大河原典子（客員研究員）			
【主な成果】 今年度は、件数として 33 件を数え、指導助言先やその内容也多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちも新たな知見を得て、的確な指導助言が行えるように努力する。			
【年度実績概要】 ・国宝高松塚古墳壁画の保存修復に関する指導助言(川野邊渉、中山俊介、朽津信明、早川典子、森井順之) ・特別史跡・キトラ古墳壁画の保存修復に関する指導助言(川野邊渉、中山俊介、早川典子、森井順之) ・厳島神社の保存修復に関する指導助言(川野邊渉、北野信彦、早川典子、森井順之) ・国宝白杵磨崖仏の保存修復に関する指導助言(川野邊渉、森井順之、早川典子、朽津信明) ・重要文化財霧島神宮本殿の修復に関する指導助言(川野邊渉、中山俊介、早川典子、森井順之、朽津信明、佐藤嘉則) ・天野山金剛寺所蔵重要文化財大日如来座像の修復に関する指導助言(朽津信明、早川典子) ・国宝法界寺阿弥陀堂壁画の保存状態及び搬出に関する指導助言(早川典子) ・国宝都久夫須麻神社本殿の蒔絵修理に科する指導助言(北野信彦) ・国宝瑞巖寺本堂の塗装彩色修理に関する指導助言(北野信彦) ・重要文化財菅尾磨崖仏の修復に関する指導助言(森井順之) ・国宝薬師寺東塔初層内部彩色の保存方法に関する指導助言(早川典子、朽津信明、楠京子) ・重要文化財輪王寺慈眼堂廟塔附石造六天像の保存修復に関する指導助言(森井順之) ・日光二社一寺の世界遺産環境モニタリングに関する指導助言(川野邊渉、森井順之) ・史跡佐渡金銀山遺跡の保存管理計画に関する指導助言（中山俊介） ・史跡菰山反射炉の保存修復に関する指導助言（中山俊介） ・史跡萩反射炉の保存修復に関する指導助言（中山俊介） ・史跡原爆ドームの保存技術に関する指導助言（中山俊介） ・史跡竹原古墳の保存管理に関する指導助言（森井順之、犬塚将英） ・史跡屋形古墳群などうきは市内装飾古墳群の保存管理に関する指導助言（石崎武志、川野辺渉、朽津信明、森井順之、犬塚将英） ・大倉集古館所蔵重要美術品五層石塔の保存修復に関する指導助言（朽津信明、森井順之） ・東京都指定文化財候補地の史跡整備に関する指導助言(北野信彦) ・京都市中出土歴史資料の保存修復及び分析に関する指導・助言（北野信彦） ・高知城下町西広小路遺跡出土漆製品の整理及び分析に関する指導助言(北野信彦) ・広島県指定重要文化財磨崖和霊石地藏の保存修理に関する指導助言(朽津信明、森井順之) ・大分県指定史跡羅漢寺五百羅漢の保存、記録に関する指導助言(森井順之) ・旧モーガン邸中門の塗装の修復に関する指導助言(朽津信明、早川典子) ・あるぜんちな丸 1 等食堂の漆棚の修復に関する指導助言(朽津信明、山下好彦、早川典子) ・明治村学習院長官舎の修復に関する指導助言(朽津信明、早川典子) ・塩尻市小野家住宅部材の塗装修理に関する指導助言(北野信彦) ・三佛寺奥院（投入堂）部材の塗装調査に関する指導助言(北野信彦) ・万世特攻平和祈念館の保存機体、部品及び紙資料の保存・修復に関する指導助言(中山俊介) ・早稲田大学演劇博物館所蔵のフィルモン音帯の保存・修復に関する指導助言(中山俊介、大河原典子) ・重要文化財加悦鉄道 123 号機関車の保存修復に関する指導助言(中山俊介)			
【実績値】 指導助言実施件数　：　33 件			
【備考】			

自己点検評価調書

研 No. 79

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	指導助言件数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	重要文化財を含む各種文化財の保存修復に関して、それぞれの保有団体、所有者の方々あるいは修復を担当する団体に対して、指導助言を行った。またその過程において、私たちも、現地を調査する機会を得、更に知見を得ることが出来た。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度は、件数は33件であった。指導助言の内容に関しては多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、当研究所においても新たな知見を得るように努力する。

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	地方公共団体が行う平城京城発掘調査への援助・助言（(1)－①）		
【事業概要】 平城宮跡の隣接地や平城京の寺院跡などの重点地区内における小規模開発に対し、宮および宮周辺における奈良時代を含む各時代の土地利用の実態把握と、遺構深度などを明らかにする目的で、発掘調査を実施した。			
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長 井上和人
【スタッフ】 小池伸彦、芝康次郎、諫早直人、神野恵、森川実、青木敬、今井晃樹、石田由紀子、川畑純、渡辺晃宏、馬場基、山本祥隆、箱崎和久、大林潤、鈴木智大、海野聡（以上、都城発掘調査部）、 中村一郎、栗山雅夫、鎌倉綾（以上、企画調整部）			
【主な成果】 平成23年度は、平城京城において、個人住宅・集合住宅等の建設にともなう計5件の発掘調査を実施した。その結果、平城京右京三条一坊一坪で奈良時代とみられる柱穴などを検出した。また、海龍王寺旧境内でも調査をおこなったが、奈良時代の遺構は確認できなかった。このほか、西大寺旧境内（薬師金堂付近）では薬師金堂の基壇が削平を受けており、調査地には遺存していないことが判明した。また左京三条一坊十坪では、奈良時代の柱穴を数基検出している。			
【年度実績概要】 平城宮に密接に関連する平城京城発掘調査への援助・助言は計5件あり、そのいずれもが開発行為（個人住宅建設等の建設）にともなう事前発掘調査である。発掘調査の総面積は166㎡、調査期間は平成23年4月11日～平成24年3月22日で、延べ28日間におよぶ。			
回数	調査地	調査原因	面積 期間 概要
482	海龍王寺旧境内	住宅建設	12㎡ 2011.04.11～2011.04.15 実質5日 近現代の遺構を検出したが、これ以前は削平。
484	平城京右3-1-1	住宅建設	33㎡ 2011.07.21～2011.07.27 実質5日 奈良時代の柱穴と、それ以前の流路を確認。
485	西大寺旧境内	山門建設	20㎡ 2011.08.22～2011.08.30 実質6日 西大寺薬師金堂推定地。基壇は削平、近代以降の盛土のみを確認。
487	平城京右3-1-1	住宅建設	21㎡ 2011.10.03～2011.10.07 実質5日 東西溝1条を検出したが、これ以外に遺構なし。
490	平城京左3-1-10	住宅建設	80㎡ 2012.03.12～2012.03.22 実質7日 奈良時代の柱穴数基、溝1条を検出。
上記の発掘調査のうち、第484次・第487次は平城京右京三条一坊一坪の調査である。後者では東西溝を検出したにとどまったが、前者では奈良時代の柱穴を検出し、その下層で埋没流路を確認した。また、第482次は海龍王寺旧境内の調査。近現代遺構を検出したものの、奈良時代の遺構は発見していない。第485次は西大寺旧境内・薬師金堂の発掘調査である。西側隣地ではこれまでに薬師金堂の基壇を検出していたが、この調査では基壇が削りとられ、近世以降の盛土を確認したにとどまった。このほか、第490次では奈良時代の柱穴などを数基検出している。			
出土遺物はいずれの調査においても僅少である。			
			
第484次調査（西から）			
【実績値】 論文等数：論文：1件 援助・助言：5件 出土品 瓦磚など8箱、土器3箱 記録作成数：実測図11枚、遺構写真（4×5）約12枚			
【備考】 論文発表、学会発表等については、別紙「論文等発表実績一覧」「学会、研究会等発表実績一覧」参照。			

【書式B】
(様式2)

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7111

自己点検評価調査

研 No. 80

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性	効率性		
判定	A	A	A	A		
備考 適時性：奈良県教育委員会および奈良市教育委員会の要請に迅速に対応し、発掘調査を実施した。 継続性：データ収集のため、規模の大小にかかわらず発掘調査を継続的に実施した。 正確性：文化財行政に協力し、正確な調査を実施した。 効率性：緊急性を要する発掘調査に効率的に対応した。						

2. 定量的評価

観点	援助・助言実施 件数	論文件数				
判定	A	A				
備考 対象地区内の開発行為に、すべて対応した。						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体から要請のあった緊急性を要する発掘調査に効率よく対応し、平城宮・京についての基礎資料を継続的に蓄積していることからAと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平城宮・京の構造や変遷を検討するために有効な基礎データを得た。

期 NO. 01

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上				
プロジェクト名称	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言（(1)－①）				
【事業概要】					
飛鳥・藤原地域は、わが国古代国家成立期の舞台であり、6世紀末から8世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、地方公共団体と連携し、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果を広く公開するとともに、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。					
【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長 深澤芳樹		
【スタッフ】					
玉田芳英、清野孝之、降幡順子、石橋茂登、山本 崇、黒坂貴裕、渡辺丈彦、廣瀬 覚、庄田慎矢、木村理恵、小田裕樹、若杉智宏、高橋 透、森先一貴、橋本美佳、番 光、高橋知奈津〔以上、都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）〕、井上直夫、栗山雅夫・岡田愛〔以上、企画調整部〕					
【主な成果】					
藤原宮跡において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は13件あり、主に現状変更に対する事前調査である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮ならびに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。特に、藤原宮跡東面大垣の調査（168-2次）では、極めて遺存状態の良好な門遺構とそれに接続する大垣を確認した。					
【年度実績概要】					
藤原宮跡および飛鳥・藤原地域において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は13件あり、主に特別史跡内の現状変更に対する事前調査である。					
次 数	調査地	調査原因	面積	調期間	概 要
168-1次	藤原宮跡東方官衙北地区	建物建設	102㎡	2011.4.4～4.22	古墳時代南北溝検出
168-2次	藤原宮跡東面中門・大垣	建物建設	200㎡	2011.7.19～8.30	東面中門等検出
168-3次	藤原宮跡大極殿院・朝堂院	看板設置	4㎡	2011.4.27	遺構面に達せず
168-4次	藤原宮跡外周帯	建物建設	3㎡	2011.8.9	遺構面に達せず
168-5次	藤原宮跡東方官衙北地区	建物建設	127㎡	2011.9.12～10.7	掘立柱建物等検出
168-6次	藤原宮跡東方官衙北地区	建物建設	48㎡	2011.10.3～10.18	掘立柱建物等検出
168-7次	藤原宮跡東方官衙北地区	建物建設	157㎡	2011.9.22～10.24	東西溝等検出
168-8次	藤原京左京二条二坊	水路改修	294㎡	2011.12.5～2012.1.25	東西溝等検出
168-9次	藤原京右京七条一坊	水路改修	20㎡	2012.2.6～2.24	南北溝等検出
168-10次	藤原宮跡内裏	池堤防補修	12㎡	2012.2.22～3.8	遺構面に達せず
168-11次	山田寺	水路改修	15㎡	2012.2.27	遺構面に達せず
168-12次	藤原宮跡東方官衙北地区	道路拡幅	145㎡	2012.3.7～8	遺構面に達せず
168-13次	藤原宮跡内裏西官衙地区	看板設置	1㎡	2012.3.15	遺構面に達せず
以下、第168-5～7次調査の成果を述べる。					
本調査は、住宅および擁壁の建設に伴う事前調査で、調査地は藤原宮東方官衙北地区にあたる。調査の結果、まず先行四条条間路北側溝と南側溝に相当する東西溝を検出した。また、この溝より南に14mの位置で、東西方向の柱穴列を検出した。北側には柱穴が展開しないことから、東西棟建物の北側柱列か掘立柱塀の一部と考えられる。藤原宮東方官衙に関連する遺構の可能性があり、遺構配置に新たな知見を得ることができた。このほか、正方位にのらない2条の柱穴列や、出土遺物から古墳時代に属すると考えられる斜行溝2条を含む、4条の斜行溝を検出した。今回検出した柱穴や東西溝は非常に浅く、後世にかなりの削平を受けていることが判明したものの、東方官衙に関連する可能性がある藤原宮期の遺構および、古墳時代の遺構の存在を確認することができた。					
					
168-5～7次調査区全景（東から）					
【実績値】					
援助・助言：13件					
報告書刊行数：1冊① 論文等数：5件					
出土遺物：木器・木製品20点、木簡3点、建築部材15点、金属製品5点、石器・石製品27点、					
土器・土製品コンテナ37箱、軒丸瓦6点、軒平瓦5点、丸・平瓦コンテナ13箱、（168-1～13次の合計）					
記録作成数：遺構実測図68枚、写真（4×5）212枚（168-1～13次の合計）					
【備考】					
① 『奈良文化財研究所紀要2012』2012.6（予定）					
論文発表等については、別紙「論文等発表実績一覧」参照。					

自己点検評価調査

研 No. 81

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				
備考 適時性：開発行為に対する迅速性、地方公共団体の文化財行政に対して協力した。 継続性：飛鳥・藤原地域に関する遺跡情報の収集のために、規模の大小にかかわらず、調査を継続して行った。						

2. 定量的評価

観点	援助・助言数	論文等数				
判定	A	A				
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	年間 13 件の案件に対して、迅速かつ適切に対応し、地方公共団体の行う埋蔵文化財行政に対して協力することができた。また、これらの調査を通して継続的に遺跡のデータを収集し、蓄積を図ったことから、総合的にAと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮並びに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。

業務実績書

研 No. 82

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言（(1)－①）		
【事業概要】 地方公共団体等が行う遺跡、建造物等の調査・整備・修復・保存等について、専門委員会委員への就任等を通して、必要な事項に関し協力・助言を行う。			
【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長 松村恵司
【スタッフ】			
【主な成果】 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。			
【年度実績概要】 主な協力・助言 ・奈良市文化財保護審議会出席(奈良県) ・郡里廃寺跡整備検討委員会出席(徳島県) ・平成23年度辰馬考古資料館評議員会出席(兵庫県) ・野洲市歴史民俗博物館協議会出席(滋賀県) ・神戸市文化財保護審議会出席(兵庫県) ・和歌山県文化財保護審議会出席(和歌山県) ・伝統的建造物群保存対策調査委員会出席(滋賀県) ・宇治市文化的景観検討委員会検討会出席(京都府) ・史跡大内氏遺跡保存修理事業に係る現地指導(山口県) ・特別史跡毛越寺境内附鎮守社跡、特別名勝毛越寺庭園に係る指導(岩手県) ・特別史跡百済寺跡再整備検討協議会出席(大阪府) ・平成23年度飛騨市文化財保護審議会出席(岐阜県) ・縄文遺跡郡世界遺産登録推進専門家委員会出席(青森) ・周防国府跡保存対策協議会専門委員会出席(山口県) ・平成23年度史跡法鏡寺廃寺跡保存整備計画事業の指導(大分県) ・下寺尾七堂伽藍跡等調査検討委員会出席(神奈川県) ・国史跡古津八幡山遺跡古墳確認調査現地指導(新潟県) ・特別史跡新居関跡整備委員会建築専門部会出席(静岡県) ・青谷上寺地遺跡発掘調査委員会出席(鳥取県) ・鬼城山発掘調査報告書作成に係る指導(岡山県) ・史跡福井洞窟発掘調査における指導と助言(長崎県) ・史跡千足古墳石障調査に関する現地指導(岡山県) ・史跡妻木晩田遺跡の発掘調査に係る助言(鳥取県) ・平成23年度宮畑遺跡整備指導委員会出席(福島県) ・平成23年度斑鳩町文化財活用センター運営委員会出席(奈良県) ・史跡城ノ越遺跡における現地指導(大分県) ・上ノ村遺跡出土木製井筒保存処理に係る指導(高知県) ・国宝島根県荒神谷遺跡出土品の保存処理(島根県) ・宮畑遺跡露出展示遺構面の安定化処理に係る現地指導(福島県) ・平成23年度原の辻遺跡調査指導委員会出席(長崎県)			
【実績値】 協力・助言実施件数（出張依頼を受けた件数）315件 （委員会出席170、審議会出席10、その他（現地指導、現地調査等）135）			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7113

自己点検評価調査

研 No. 82

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考 適時性：実施業務に適時・適切な対応 発展性：的確な協力・助言による実施業務の順調な実現 継続性：依頼機関への対応						

2. 定量的評価

観点	協力・助言実施 件数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体等が行う遺跡、建造物などの調査・整備・修復・保存等に関して、的確に協力・助言を行うことができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	現在、全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・整備・修復事業や、建造物の調査、修復事業について、各担当機関から専門的な協力・助言を求められ、適時・適切に対応している。奈良文化財研究所に対する社会的要求に応えるべく、今後もの確に対応する。

【書式B】
(様式1)

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7121

業務実績書

研 No. 83

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究を実施（(1)－②）		
【事業概要】 地方公共団体等がおこなう文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、共同研究及び受託研究を実施する。			
【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長 松村恵司
【スタッフ】			
【主な成果】 地方公共団体等がおこなう文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、受託研究等をおこなった。			
【年度実績概要】 地方公共団体等がおこなう文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、受託研究等を行った。 ・文化遺産国際協力拠点交流事業 ・相川地区文化的景観 景観変遷・景観構造調査 ・比叡山延暦寺建造物調査 ・朱雀大路緑地遺跡発掘調査 ・興福寺北円堂門跡・回廊跡の発掘調査 ・藤原宮跡（法花寺水路改修）発掘調査 ・平成23年度小竹貝塚出土骨角器同定調査業務 ・周防国庁における総合的探査 ・出雲大社建築金物の材質分析 ・永保寺開山堂の年輪年代補足調査および観音堂の年輪年代調査 ・文化庁事業「発掘調査のてびきー各種遺跡調査編ー」など このほか、東京大学や早稲田大学、都道府県教育委員会等と分担して計10件の研究を行った。			
【実績値】 受託研究件数 33件			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7121

自己点検評価調査

研 No. 83

1. 定性的評価

観点	適時性	正確性	継続性			
判定	A	A	A			
備考 適時性：実施業務に適時・的確な対応 正確性：実施業務に対し、正確な調査等を実施 継続性：依頼機関への対応						

2. 定量的評価

観点	受託研究件数					
判定	A					
備考						

3. 総合的评价

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体等からの依頼に対し、これまで研究所が培ってきた研究成果、調査技術等を活かし、的確な受託研究等をおこなうことができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	地方公共団体等からの受託研究に迅速、かつ的確に対応している。 今後も、わが国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与すべく他機関と共同して研究等に取り組んでいく。

業務実績書

研 No. 84

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）（(1)-(3)）		
【事業概要】 災害により被災した文化財の保護のため、文化庁の要請を受け、国立文化財機構は東京文化財研究所に事務局を設置し、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）を実施する等、地方公共団体等に対する支援・協力を行う。			
【担当部課】	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局	【プロジェクト責任者】	副事務局長 岡田 健
【スタッフ】 亀井伸雄（委員長、所長）、石崎武志（事務局長、副所長）、六川真五（事務総括、研究支援推進部長）、高柳 明、高砂健介（以上、研究支援推進部）、森井順之、朽津信明、早川泰弘、吉田直人、木川りか、佐野千絵（以上、保存修復科学センター）山梨絵美子、二神葉子、綿田 稔、塩谷 純、江村知子、皿井 舞、（以上、企画情報部）、飯島 満、今石みぎわ、菊池理予（以上、無形文化遺産部）			
【主な成果】 1) 東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局を設置した。 2) 被災文化財レスキュー事業を実施した。			
【年度実績概要】 1. 東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局を設置した。 文化庁によって「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業」が開始され、東京文化財研究所内に救援委員会事務局が設置された。 2. 被災文化財レスキュー事業を実施した。 「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）実施要項」（平成23年3月30日文化庁次長決定）に基づき、文化庁及び被災地各県と協力して、東北地方太平洋沖地震によって被災した動産文化財（美術工芸品等）を中心に緊急に保全するとともに、今後に予想される損壊建物の撤去等に伴う我が国の貴重な文化財等の廃棄・散逸を防止することを目的とした活動を行った。 活動内容としては、被災文化財等の所在等に関する情報収集、被災文化財等の救出及び保管、緊急の保存及び応急措置、救出した文化財等の情報管理等を行った。 また、文化庁をはじめとする構成団体（26団体）に対し、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会（4回）を開催し、情報の共有を図った。			
【実績値】			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7131

自己点検評価調書

研 No. 84

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	効率性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	被災地各県教育委員会等からの要請に応じた、被災文化財等の救援活動を行うことができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事務局を設置し、東日本大震災により被災した文化財のレスキュー事業を開始することができた。

業務実績書

研 No. 85

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	埋蔵文化財担当者研修の実施 (2) - ①		
【事業概要】 地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者に対する研修を実施する。 研修受講者のうち平均80%以上の者から「有意義だった」、「役に立った」と評価されるよう研修内容の充実を図る。			
【担当部課】	企画調整部 研究支援推進部総務課	【プロジェクト責任者】	企画調整部長 難波洋三 総務課長事務取扱 多 昭彦
【スタッフ】 森本 晋 [企画調整部]、大西俊隆、桑原隆佳、岩永恵子、橋本牧枝 [以上、研究支援推進部] (研修内容に応じ、研究所職員の適任者及び外部の学識経験者が講師を行っている。)			
【主な成果】 遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、専門研修13課程の研修を実施し、延べ136名が受講した。 研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。			
【年度実績概要】 専門研修13課程を実施し、延べ136名が受講した。 また研修受講者に対し、「今回受講した研修が『有意義だった』あるいは『役に立った』と思うか、思わないか」のアンケート調査を行った結果、100%の者から『思う』の回答を得た。			
専門研修	建築遺構調査課程	実施期日 (日数)	定員 受講者数 満足度
	建造物保存活用基礎課程	6月13日～6月17日 (5日)	12名 9名 100%
	石器・石製品調査課程	6月20日～6月24日 (5日)	16名 20名 100%
	自然科学の年代測定法課程	9月12日～9月16日 (5日)	10名 14名 100%
	保存科学Ⅰ(金属製遺物)課程	9月26日～9月30日 (5日)	12名 3名 100%
	保存科学Ⅱ(木製遺物)課程	10月4日～10月13日 (10日)	10名 7名 100%
	遺跡測量課程	10月13日～10月21日 (9日)	10名 6名 100%
	遺跡情報記録調査課程	10月26日～11月2日 (8日)	10名 4名 100%
	文化財写真課程	11月14日～11月18日 (5日)	16名 8名 100%
	文化財写真課程	11月28日～12月8日 (11日)	10名 12名 100%
	報告書作成課程	12月8日～12月16日 (9日)	16名 11名 100%
	遺跡等環境整備課程	12月8日～12月16日 (9日)	16名 11名 100%
	遺跡等環境整備課程	1月10日～1月20日 (11日)	12名 13名 100%
	保存科学Ⅲ(応急処置)課程	2月6日～2月10日 (10日)	10名 20名 100%
	地質環境調査課程	2月14日～2月22日 (9日)	16名 9名 100%
【実績値】 実施課程数 13 課程 受講者数 136 人 受講者の満足度 100%			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7211

自己点検評価調査

研 No. 85

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性		
判定	A	A	A	A		
備考 適時性：公共性、緊急性への対応 独創性：研修内容のオリジナリティ、新規性、卓越性 発展性：発掘・保存・整備等に関する技術の全国的な水準向上 効率性：時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性						

2. 定量的評価

観点	研修実施回数	受講者数	受講者の満足度			
判定	A	B	A			
備考 実施課程数 13 課程 受講者数 136 人 受講者の満足度 100%						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度は、7つの課程において研修内容を改めて、真に地方公共団体が求める研修を実施し、当初予定していた13課程を予定通り行った。受講者数について、年度計画の延160人に対して136人という結果となった理由としては、厳しい財政事情等のやむを得ない事情もあったかと思われる。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度の研修実績について、受講者に対するアンケートでは、「今回受講した研修が『有意義だった』」或いは『役に立った』と『思う』との回答が100%という結果であった。 今後も本研究所では、真に地方公共団体が求める研修、さらには厳しい財政事情のなか、対費用効果を十分に勘案しながら研修事業の充実を図りたい。

業務実績書

研 No. 86

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	博物館・美術館等保存担当学芸員研修（(2)-②）		
【事業概要】 「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」は、全国の文化財施設で資料保存を担当する職員を対象に、主に自然科学的知見に基づいた保存に関する基本的な知識や技術を学んで頂くことにより、現場における保存環境の向上と資料管理に資することを目的として開催するものである。また、本研修受講経験者を対象に、最新の保存に関する知見を提供することを目的とした「保存担当学芸員フォローアップ研修」や、地方に出向いて、文化財保存担当者などに基礎的な知識を提供する「資料保存地域研修」なども適宜実施する。			
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長 石崎武志
【スタッフ】 佐野千絵、早川泰弘、木川りか、吉田直人、犬塚将英（以上、保存修復科学センター）			
【主な成果】 第 28 回保存担当学芸員研修、保存担当学芸員フォローアップ研修、第 16 回資料保存地域研修を、それぞれの趣旨に沿ったプログラムのもとで実施し、非常に高い満足度を得た。			
【年度実績概要】 今回で 28 回目となる「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を 7 月 11 日から 7 月 22 日の 2 週間実施した（参加者 27 名）。例年通り、前半週では主に保存環境や生物被害対策に関し、後半週では、文化財の種類ごとの劣化と修復に関する講義と実習から成るカリキュラム構成で研修を行った。保存環境実習の現場実践として行う「ケーススタディ」は八千代市立郷土博物館で実施し、3 人ないし 4 人ずつのグループがそれぞれ実習テーマを設定し、保存環境に関する調査と評価を行った。この研修により、受講生は、資料保存に対する基礎的な知識と、方法論を習得した。また、今回は東日本大震災により、甚大な文化財への被害が生じたことを受け、被災文化財の応急処置などに関して、研究と実践に基づいた講義や実習をカリキュラムに組み込んだ。 今年度は他に下記にあげる 2 つの研修会を行った。 ・「保存担当学芸員フォローアップ研修」（6 月 27 日） 保存担当学芸員研修受講経験者を対象に、資料保存に関する新しい知見や情報を伝えることを目的とし、生物被害対応、および水損紙資料の応急処置に関する講義を行った（参加者 87 名）。 ・「第 16 回資料保存地域研修」（11 月 16 日～11 月 17 日） 熊本市現代美術館において開催し、温湿度や照明といった保存の基礎、および現代美術館の保存環境に関する講義を行った（参加者 67 名）。 今年度実施した上記の研修では、どれも 100%またはそれに近い非常に高い満足度を得た。			
【実績値】 実施回数 1 回 研修受講者数 27 名 受講者の満足度 100%			
【備考】			

自己点検評価調査

研 No. 86

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性	発展性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考 保存担当者にとって、自然科学的基礎に立脚した環境管理を学ぶ場は非常に少ないため、本研修は毎年定員の2～3倍の応募者を集めるほど貴重な機会となっている。これまでに受講者は700名に達しようとしており、全国の文化財保存施設で、資料を良好な状態で後世に伝える重責を担っている。また、受講生と我々の間で電子メールなどによる人的ネットワークを構築し、研修後も様々な相談や情報交換を行う体制を作っており、アフターケアも万全といえる。今年度、被災文化財に関する講義を組み込んだように、カリキュラムは完全に固定したものではなく、基礎に重きを置きながら、保存環境を取り巻く状況の変化に対応したカリキュラム作りを心がけている。						

2. 定量的評価

観点	参加者数	満足度				
判定	A	A				
備考 今年度の「保存担当学芸員研修」には全国から27名が参加し、実施後のアンケート調査により100%の満足度を得た。						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研修参加者数、アンケートによって得られた参加者の満足度ともに、高評価に値するものであるといえる。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	毎年、継続して実施しており、参加者、満足度ともに非常に高いレベルを維持するよう、内容の充実と講義能力の向上を図ってきた。今後も、現場でのニーズや情勢変化に応じた柔軟なカリキュラム編成を心がける所存である。

業務実績書

研 No. 87

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	連携大学院教育 東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）（(2)-(3)）		
【事業概要】 平成7年4月より東京藝術大学と連携してシステム保存学コースを開設し、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の2講座から成る。6名の所員が連携教員として授業を開講している。			
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存科学研究室長 佐野千絵（教室主任）
【スタッフ】 佐野千絵、石崎武志、木川りか、中山俊介、北野信彦、朽津信明（以上、保存修復科学センター）			
【主な成果】 保存環境計画論、修復計画論、修復材料学特論、保存環境学特論をシラバスに則り開講した。また、実習である文化財保存学演習を1コマ担当した。			
【年度実績概要】 連携教員は、保存環境学講座に石崎武志連携教授（副所長・保存修復科学センター長）、佐野千絵連携教授（保存科学研究室長）、木川りか連携准教授（生物科学研究室長）の3名、また修復材料学講座に、北野信彦連携教授（伝統技術研究室長）、中山俊介連携教授（近代文化遺産研究室長）、朽津信明連携准教授（修復材料研究室長）の3名、及び古田嶋智子 助手（東京藝術大学大学院 教育研究助手）。 今年度開講した授業（主たる担当教員）は以下のとおりである。 保存環境計画論（前期） 佐野千絵 連携教授 修復計画論（前期） 北野信彦 連携教授 修復材料学特論（前期） 中山俊介 連携教授・朽津信明 連携准教授 保存環境学特論（後期） 石崎武志 連携教授・木川りか 連携准教授 この他、東京藝術大学教員との分担による科目として以下を実施した。 文化財保存学演習（平成23年6月14日）「考古・民俗資料の保存修復に関する講義及び実習」 担当：北野信彦 連携准教授 於：東京文化財研究所			
 文化財保存学演習 実習の様子			
【実績値】			
【備考】			

自己点検評価調査

研 No. 87

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	正確な知識や技術、情報やデータを元に、授業を展開している。明日の文化財保存修復を担う若い学生にとって、基礎となる土台を作る重要な仕事であり、その影響はきわめて高く、また芸術大学との連携はきわめて効率的であり、その評価は高い。平成25年度入試の再開が決まっており、本年の成果を元に、連携教員の開講科目や学生の受け入れ体制などを検討したい。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	予定していた授業について、順調に開講し、学生への教育に従事した。また、平成25年度入学からの学生受け入れについての打合せなどの準備も連携教員内で着々と進められている。

業務実績書

研 No. 88

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進（(2)－③）		
【事業概要】 京都大学大学院人間・環境学研究科及び奈良女子大学大学院人間文化研究科との協定を締結、連携・協力し、文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた次代の研究者及び技術者の育成を図る。			
【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長 松村恵司
【スタッフ】 松井章、小野健吉、小澤毅（京都大学客員教授）、高妻洋成、清水重敦（京都大学客員准教授） 小池伸彦、渡邊晃宏（奈良女子大学客員教授）			
【主な成果】 京都大学大学院人間・環境学研究科において 5 名、奈良女子大学大学院人間文化研究科において 3 名の研究職員が、客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して、大学院生の研究指導を行った。 なお、平成 23 年度の受入学生数は京都大学 75 名、奈良女子大学 5 名であった。			
【年度実績概要】 京都大学大学院人間・環境学研究科〔共生文明学専攻文化・地域環境論講座文化遺産学分野（客員）〕並びに、奈良女子大学大学院人間文化研究科における平成 23 年度の実施状況については、下記のとおりである。 ①小野健吉 「庭園文化論 1」【修士課程 19 名】 「庭園文化論 2」【修士課程 10 名、博士課程 1 名】 「特別研究Ⅰ」【博士課程 1 名】 ②清水重敦 「文化・地域環境方法論」【修士課程 12 名】 「共生文明学研究Ⅰ」【修士課程 1 名】 「文化的景観論 1」【修士課程 8 名】 「文化遺産学演習 3A」【修士課程 3 名】 「文化遺産学演習 3B」【修士課程 3 名】 ③松井章 「環境考古学論 1」【修士課程 5 名】 「文化遺産学演習 4A」【修士課程 2 名】 「文化遺産学演習 4B」【修士課程 2 名】 ④高妻洋成 「保存科学論 1」【修士課程 3 名】 「文化遺産学演習 6A」【博士課程 2 名、修士課程 1 名】 「文化遺産学演習 6B」【博士課程 2 名、修士課程 1 名】 ⑤小澤毅 「遺跡調査法論 1」【修士課程 4 名】 ⑥深澤芳樹 「歴史考古学特論Ⅰ」【博士後期課程 1 名】 ⑦小池伸彦 「文化財学の諸問題Ⅰ」【博士後期課程 1 名】 「文化財学の諸問題Ⅱ」【博士後期課程 1 名】 ⑧渡邊晃宏 「歴史資料論Ⅰ」【博士後期課程 1 名】 「歴史資料論Ⅱ」【博士後期課程 1 名】			
【実績値】 受入学生（延べ人数） 京都大学：75 名、奈良女子大学：5 名			
【備考】 教官研究費及び学生の教育費は連携大学が負担			

【書式B】
(様式2)

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7232

自己点検評価調書

研 No. 88

1. 定性的評価

観点	効率性	適時性	発展性			
判定	A	A	A			
備考 効率性：研究水準の社会的評価 適時性：時代の要請 発展性：若手研究者層の充実、人材確保						

2. 定量的評価

観点	受入学生数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材の育成を順調時行うことができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	連携大学院協定に基づき、計画的かつ継続的に実施できた。次期についても、引き続き連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。